

の運動に苦悶して居る。我々に於てはこれが第五回の労働祭で、世界的労働運動の波瀾を有するに至つてから日本独自の關係もあらうが、其運動方法の如きも極めて形式的で相対的で、唯々中に労働者の頭を刺戟して居るに過ぎないであらう。不幸にして我々に於ても従来此示威行に際して警官の衝突したり、暴行したりした事があった。形式的な決議などはあるが、大體が不徹底な上つ調子のお祭騒ぎ気分が勝ち過ぎて居る。然るではあるまいか。

三

併し今度の第六回國際労働會議には労働組合を派進して選出された本當の労働代表が送られた。随つてそれだけ我々の労働體は世界的運動に一體に接近して来た。運であり、又隨つて國內に於ける労働團體やその運動も大に近代化されねばならなくなつて来たのである。吾人は此意味に於て、本日舉行せらるる我々の労働祭が如何なる進歩を現し得るだらうかといふ事に深い興味を覺いで居る。少なくとも不徹底な労働祭から解脱して、各個人が正しき労働を果たし、個性を發揮する所に、眞の協働即ち社會運轉があり、社會的文化的基礎があるといふ點を、眞實に確して貰ひたいものである。思つて居る。

四

労働祭の意義は必ずしも行列する事によつてのみ現はされるもので

はない。我々の如く企業者にして被虐なる道徳を有する都市に於いて、多數人が示威行列を奉るに就ては、其物體たるものに、先づ團體が起り居るに過ぎない。要は労働者自身の自覺自願による事であるが、我々に於ては行列をする道徳その能につき先進國に劣るし、も條件を二にして居ないといふ事を大に注意せねばならぬ。

メーデーに捧ぐ 中野 秀 人

今日はメーデーだ

「兄弟！
今日はメーデーだ、
吾等の日だ、無題の日だ」
私が抱つた管絃ビラの樂にかう書いてある。

私は樂隊に誘われて廣場に出た。
赤い黒さに影られた小さい木綿
目に立たないやうに東線され
た示成の旗。

こゝは廣々とした埋立地だ。
海は灰色に重なつてある。
背低い労働者が
ぞろぞろと道の中央に集まつて
行く。

黒い顔の若い頭が
歩き集められた赤のやうにかた
まる。

「兄弟！
今日はメーデーだ」
群衆の中の小さい所に

今日はメーデーだ

私はみんなの後から
道の中央に出て行つた。
若い労働者の男が指揮棒を振つ
た。みんな一様に革命歌を叫び出し
た。けれども不揃いな言葉は
まるでぶぶやくやうに
風の中に消れて行つた。

「資本家を！」
「資本家を！」
「さ叫ぶ聲が、
地球の丸さを感じるやうな廣場
のやうに舞ひ上つた。

陽は既に夏の色を帯びてゐる。
今日はメーデーだ